

第十六回帝國議會
衆議院

臺灣ニ在勤スル巡查看守退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案委員會會議錄(速記)第二回

會議

明治三十五年二月十四日午後一時四十一分開議

出席委員左ノ如シ

石谷 董九郎君
大津 淳一郎君

花井 卓藏君
市岡 政香君

星 松三郎君

出席政府委員左ノ如シ

內務書記官 森田 茂吉君

○委員長 石谷董九郎君 ソレヂヤコレカラ……

○花井卓藏君 明治三十四年法律第三十八號巡查看守退隱料及遺族扶助料法
ト云フ法律ハ、明治二十九年法律第六十三號第五條ニ據リテ、内地ノ法律ヲ
臺灣ニ行ハレタルモノト見テ宜シイノデスカ

○政府委員 森田茂吉君 左様デゴザイマス

○市岡政香君 政府委員ニ御尋ネテ致シマスノハ、此今度出マスル此法律ガ
可決セラレタ曉ハ、法律三十八號ト云フモノハ、自ラ立消エニナル勘定デス
カ

○政府委員 森田茂吉君 イエ、三十八號ガ行ハレテ居リマスカラ、其三十八號
ノ中ニ巡查ノ退隱料ヲ貰フノガ、十年ト云フコトニナツテ居リマス、ソレヲ
七個年ニシヤウト云フノガ、今度ノ法案ノ旨意デアリマス、三十八號ハ矢張
活キテ居リマス、竝ビ行ハレテ居リマス

○市岡政香君 モウ一ツ御尋ネ致シマス、是ガ可決セラレテ實施ヲスル時分
ニナリマシテ、豫算ニ響キハアリマセヌカ

○政府委員 森田茂吉君 豫算ニハ響キマセヌ積リデス、詰リ巡查ノ三十八號
ニ依ッテノ計算ト、ソレカラ年限ヲ短縮シマシタ計算トノ違ヒト云フモノガ少
シアリマス、其違ヒハ少シデ二三圓位ノ相違デアリマスカラ、大シタ響キナ
ク濟ミマス積リデス

○花井卓藏君 此法案ハ事實トシテハ可決セラレテアル、條項ノ全體ハ、總テ
臺灣ニ皆行ハルベキモノト理解シテ、宜シウゴザイマセウカ

○政府委員 森田茂吉君 左様デゴザイマス

○花井卓藏君 果シテ然リト致シマスレバ、政府ニ於テハ此法律案ヲ可決シ
テ發布シテ、ソレヲ以テ明治二十九年法律第六十三號第五條ノ規定ニ基キ
テ、勅令ヲ以テ臺灣ニ施行スル旨ヲ定メラレト云フ趣意ニ心得テ宜シイ
カ、或ハ又此法案ガ可決セラレタ曉ニ於テハ、別段ニ六十三號第五條ノ手續
ヲ要セズシテ、此儘デ臺灣ニ施行スルノカ、ドウ云フ御考デアリマスカ

○政府委員 森田茂吉君 政府ノ考ハ唯今御話ニナリマシタ、アナタノ後ノ御
考ノヤウナ解釋ヲ採ッテ居リマス、ソレデ臺灣ノタメニ特ニ發シマシタ法律

ハ、別段ニ六十三號第五條ノ規定ヲ要サヌデ宜シイト云フ事柄ハ、既ニ六十
三號ハ別段ニアルガ出マシテ、尙勅令ヲ以テ六十三號施行ト云フコトハ出ナ
イデ居リマス、其外ニ臺灣銀行法ナリ又ハ臺灣ニ會計検査院支廳設置ノ件、
總テ臺灣ノタメニ發シタ法律ハ、解釋上六十三號第五條ノ手續ヲ要サヌデモ
宜シイト云フコトニ、從來ナツテ居リマス

○花井卓藏君 ソレデハ一ツ更ニ大切ナル點ニ附イテ御尋ネテ致シマスガ、
臺灣ノ領土ニ行ハルベキ法律ハ、或者ハ法律六十三號ノ規定ニ基キテ、即チ
委任セラレタル權限ニ基イテ、命令ヲ以テ法律ノアルベキ効ヲ有スル法則
ヲ、臺灣總督府ガ立テラレ、而シテ又或者ニ對シテハ内地ニ於テ、臺灣ニ施
行スベキ——臺灣ニ施行スベキ法律ト云フモノハ、詰リ前ヨリ政府ノ慣例ト
見テ宜シイカ

○政府委員 森田茂吉君 此六十三號ト云フモノハ、此内地ノ立法院ガ、臺灣
ノ立法ヲ制限シテ居ル法律デハナイノデアリマス、六十三號ハ單ニ臺灣總督
府ガ管轄内ニ法律命令ヲ出シマスニ過ギナイノデ、内地ノ立法院ハ臺灣ノ立
法ヲ指定スルコトハ、出來ナイト云フコトヲ檢束シテ居リマセヌカラ、此立
法院ノ協贊ヲ得テ、臺灣ニ特ニ法律ヲ出シテモ差支ナイト云フコトニナツテ
居リマス

○花井卓藏君 ソレデハ尙御尋ネ致シマスガ、臺灣ニ於ケル法律關係、殊ニ
立法權ト云フ事柄ニ關シテハ、一半ハ帝國議會ノ協贊ニ依ルベキ、即チ正則ノ
方法手續ヲ採リ、又一半ハ六十三號ニ依ッテ授權セラレタ權限ニ依ッテ立法ヲス
ル、言葉ヲ換ヘテ云ヘバ、變則ノ立法ト正則ノ立法法トガ併ヒ行レテ居ルト、
理解シテ宜シウゴザイマスカ

○政府委員 森田茂吉君 其通りデス、今マデノ慣例デハ、内地ノ立法ノ協贊
ヲ經テ出マシタ立法ハ、極少イト云フコトガ事實ニナツテ居リマス、特ニ臺
灣ノタメニ發スルモノニシテ、其モノガ内地ノ法律カラ出ツルトカ、會計法
ニ關係スルモノトカ、若クハ豫算ニ關係スルモノトカ云フモノノミガ、内地ノ立法
部ノ協贊ヲ經テ出テ居ルヤウナ姿ニナツテ居ッテ、今表ヲ御目ニ懸ケマスガ、
六十三號ノ第一條ニ依ッテ、律令ヲ出シテアルモノガ、多イト云フ事實ニナツ
テ居リマス

○花井卓藏君 所謂變則方法ニ依ッテ出タモノガ多イカ、正則ニ依ッタモノガ
多イカト云フガ如キハ、御答辯ハ煩ハサヌノデ、兎ニ角變則ノモノト正則ノ
モノトガ、兩種アルコトヲ承レバ宜シイ

○政府委員 森田茂吉君 其通り兩種アリマス

○花井卓藏君 サウスルト、此法律ノ關係ガ六十三號ニ頗ル響キヲ有ツノデ
アル、故ニ此場合ニ於テ六十三號ト此法律トノ關係、寧ロ進ンデ六十三號ト

正則的立法法ニ依ッテ出ヅベキ法則トノ關係ヲ、尋ネテ置ク必要ガアルト思フ、明治二十九年法律第六十三號中改正法律案ノ理由書ヲ見マスルト「臺灣ノ狀態タル未タ以テ内地ト同一ノ法令ヲ以テ律スヘカラサルノミナラス機宜ノ立法ヲ爲スニ非レハ統治ノ完キヲ望ムヘカラス是レ本案ヲ提出スル所以ナリ」ト掲ゲラレテアル、六十三號ノ法律ハ明治二十九年發布ノ當時ニ於テ、議論ガアツテ、三十二年ニ延期ノ議案ガ出タ時ニモ議論ガアツテ、而シテ茲ニ再ビ延期ノ問題ガ起ツテ居ルノデアリマスガ、要スルニ第一回ノ場合ニ於テモ、第二回ノ場合ニ於テモ、三回即チ今回ノ場合ニ於テモ、臺灣ノ狀態タルヤ、内地同様ノ法令ヲ以テ律スルコトガ出來ナイノデアアル、總テニ於テ機宜ノ立法ヲ要スル、否ラザレバ臺灣ノ統治ハ完キヲ望ムコトガ出來ヌ、故ニ變則的立法法、即チ六十三號ニ依ッテ立法スルニアラサレバ、完全ナル成果ヲ收メラレヌト云フコトガ、六十三號發布ノ理由ノ如ク見ラル、ニモ拘ラズ、或モノニ對シテハ内地ノ同一ノ法令ヲ以テ律シ、或モノハ否ラズト云フナラバ、何程ノ法律ダケガ六十三號ニ包含セラルベキモノデアアルカ、又何程ノモノガ六十三號以外ニ、内地ノ立法法デアルカ疑ガ起ル、從ツテ六十三號改正法律案ノ理由書ニ掲ゲテアル、絕對的臺灣ノ狀態ハ内地ト同一デナイト云フコトハ、寧ロ虛偽ノ理由デハナイカト云フ感ヒモ生ズル、此質問ハ六十三號ノ成立不成立ニ響キヲ有ツタガタメニ、聞クノデハナイ、本案ノ成立不成立ニ響キヲ有ツタガタメニ問フノデアアル、若シ六十三號ニ依ッテ全軀ノ立法事項ノ委任ガアリ得ベキモノト致シマシタナラバ、六十三號ニ依ッテ授ケラレタ方法ニ依ッテ立法手續ヲ取ルベキガ相當ト考ヘルノデアアル、若シサウデナイ、一半ハ内地ノ立法ニ依ルベキモノデアアルト云フナラバ、六十三號ノ理由書ニ掲ゲテアルコトハ、政府ガ虛偽ノコトヲ掲ゲ出シタモノデアアルカト云フ疑ガ起ル、故ニ此點ニ對シテ、委シク説明ヲ得タイト思フ

○政府委員森田茂吉君 御疑ノ點ハ御尤ト存ジマス、併シ六十三號ノ説明ヲ見タヤウニナリマスガ、要ヲ摘ンデ申スト、先程申上ゲタ通り、内地ノ立法部ヲ經過シテ行キマシタモノデモ、特ニ臺灣ノタメニ出タモノガアリマス、ツレカラ内地ノ立法ニ附イテモ臺灣在住ノ内地人若クハ外國人ニ適用スルコトハ、内地ト同一法律デヤツテ宜シイト云フコトヲ、政府ハ認メテ居リマスガ故ニ、此六十三號ノ如キモ、第五條ニ於テ現行法デモ、將來發布スル法律デモ、臺灣ノ事情ノタメニ必要ナルモノハ、勅令ヲ以テヤルコトガ出來ル、即チ内地ト同一ノ法律ヲ作ルコトガ出來ルト云フコトニナツテ居リマス、ツレカラ臺灣在住ノ内地人若クハ外國人ニ適用スルヤウナ關係事項ガ、往々ゴザリマシテ、臺灣土着ノ二百五十萬ニ對シテハ、事情風俗ノ違ツタ點ハ、六十三號ノ第一條ニ依ッテヤツテ居ルノガ今日多イノデス、所ガ今度出シマシタ此案ハ、既ニ巡查看守退隱料遺族扶助料ト云フ内地ノ法律ガ、彼地ノ法律トシテ行ハレテ居リマス、ツレデ此法律ノ内容ヲ變ヘルコトハ、律令ノ力ヲ以テスルコトハ出來マセヌノデ、ツレデ法律トシテ帝國議會ノ協賛ヲ經ルト云フコト

ニ、今度政府ガ提出ヲ致シマシタノデアリマス
○花井卓藏君 答ノ要領ハ問ノ趣意ニ對シテ盡シテ居ラヌ、盡シテ居ラヌト云フヨリハ、寧ロ答ニナラヌト考ヘマスガ、ツレハ意見ニ屬スルカラ、私ハ茲デハ述ベマセヌ、更ニ私ガ尋ネタイノハ、先刻政府委員ガ引用致シマシタ所ノ臺灣銀行法ノ如キモノハ、臺灣ノミニ行フベキ法律デハナイノデアアル、多クハ内地人ニ行ハントスル所ノ性質ノ法律デアアル、ツマリ是ヲ區域ノ廣メテ申シマシテモ、内地並ニ臺灣共通ノ性質ノ法律デアアルト云フコトハ、御認メニナルダラウト思ヒマス、ツレヲ御認メニナリマスガ

○政府委員森田茂吉君 唯今例證致シマシタ臺灣銀行法バカリデアアリマセヌデ、表ヲ差上ゲテモ宜シウゴザイマスガ、此臺灣ノ文官ノ恩給法ニ付イテモ、今回提出シマシタヤウナモノガ出テ居リマス、ツレカラ臺灣ニ會計検査院ヲ設置シマスル法律、是モ臺灣ノタメニ出タモノデアリマスカラ、一箇ノ法律トナツテ來ル以上ハ、銀行法ト同ジク帝國ノ法律デアアルト云フ解釋ハ、無論異論ハナイノデアリマス、其外尙臺灣總督府ノ特別會計法、是モ法律デ出テ居リマス、是モ臺灣總督府ノ特別會計法デアツテ臺灣ノタメニ出タモノデアリマスルカラ、是モ一箇ノ法律トナツテ出ル以上ハ、帝國ノ法律ト認メテ差支ナイ、是等ハ陸軍軍法會議法——臺灣ニ於ケル軍法會議法ニ屬スルケレドモ、矢張外ノ法律ト同ジク帝國ノ法律ト認メテ差支ナカラウト思ヒマス

○花井卓藏君 今迄ノ先例ハ承ラヌデモ宜イ、先例ハ間違ッテ居ルノハ幾ラモアル、惡先例ハ幾ラモアルカラ惡先例ハ聞カナイノデアアル、臺灣銀行法ナルモノハ法律論トシテ御尋ハシナイ、事實論トシテ御尋ヲ致シマスガ、立法者ノ豫想シタル所ニ於テ、立法者ノ考ヘタル所ニ於テ、是ハ事實トシテハ内地ニ專ラ行ハントスル性質ノ法律デナイト考ヘル、勿論或條項ニ限ラレテ居リマスケレドモ、歸納タル根本タル運用ヲスル條項ニ於テハ、内地人ニ重ニ制定セラレタ法律デアラウト思フ、若シ然ラズシテ區域ヲ廣クシテ考ヘマシタ所ガ、内地人ニモ當然適用センケレバナラヌガ、臺灣在住ノ者ニ適用センケレバナラヌト見テ宜シウゴザイマスガ、ツレデ更ニ問ヲ進メマスデ宜シカラウト思フ、然ルニ此臺灣巡查ノ關係ト云フモノハ、内地人内地ニ對シマシテハ、全ク適用スベキ場合ヲ生ゼヌノデアアル、臺灣ニ在職スル臺灣ノ巡查臺灣ノ看守ニ關スル法律ト云フモノハ、一般正則ノ立法手段ニ依ッテ内地ニ行ヒ得ベキモノト假リニ定メマシテモ、事實トシテハ内地ノ巡查ハ臺灣ノ巡查デアル、到底事實論トシテ絕對ニ適用ヲ得ベキ場合ハ想像ガ出來ナイノデアアル、果シテ然ラバ是等ノ法律コソ所謂臺灣ノ狀態タル、内地ト同一ノ法律ヲ以テ律スベカラサル分ニ屬センケレバナラヌモノト考ヘル、然ルニ此臺灣ノミニ行フベキ性質ノ法律銀行法ノ如ク内地並ニ臺灣ニ共通スル法律ト同様ニ見ラレルト云フコトノ趣旨ト致シマスルト、内地ニモ臺灣巡查看守アリト云フ論結ニナラナケレバ、意味ヲ爲サヌモノト考ヘルノデアアル、ツコニ一ツ疑ガ

アル、先例ハ幾ツアツテモ宜シウゴザイマス

○政府委員森田茂吉君 ツレハ同ジモノデゴザイマス、ツマリ今度ノ法律ハ無論臺灣ノ巡查看守ニ適用スル法律デアリマスルガ、之ヲナゼ六十二號ニ依ッテ出サズシテ、帝國議會ノ協賛ヲ經テ來タカト云フコトハ、先程申シマスル通り此内地ノ三十八號ナルモノハ、臺灣ニモ法律トシテ行ハレテ居リマス、此法律ヲ變更スル場合ニ於テ律令ナク命令ヲ以テ變ズルコト云フコトハ出來マセト云フ考ヲ持ッテ居リマスルノデ、即チ三十八號ノ法律ハ他ノ一般外ノ法律ト同ジク臺灣ニ行ハレテ居リマスカラ、内容ヲ改正シテ權限ヲ進メル如キ規定ハ、矢張法律ノ力ヲ以テセンケレバナラヌト云フ考カラ、協賛ヲ求メニ參リマシタ、ソレカラモウ一ツ成程今度ノ法律案ハ臺灣ニ在勤スル巡查看守ト云フコトデアリマスケレドモ、三十八號ノ法律ヲ施キマシタノハ、内地ノ巡查ガ臺灣ニ往キマシタリ、或ハ臺灣ノ巡查ガ内地ニ來リスル場合ニ、關係スル規定デアリマス、ソレデスカラ内地ノ巡查ガ五年勤メテ、臺灣ヘ往ッテ又五年勤メタトスレバ、十年勤メタト云フ規定モアリマスカラ、多少ノ聯關シテ居ルモノモアリマス、ソレデ文官恩給法ノ如キモ、此方ニ勤メテ居ルモノガ臺灣ヘ文官デ往キマス、矢張年度ヲ通算シマス、其通算ノ間ニ於テ臺灣ニ勤メタ者ハ年限ヲ少シ餘計加ヘテヤルト云フ關係ガアリマスカラ、總テ内地ノ法律ト同一ニシタ方ガ宜イ、サウシテ同様ニセラレナイモノハ、特別ノ法律ヲ以テ規定シタラ宜イト云フノデ、已ニ文官ノ恩給法モ昨年議會ノ協賛ヲ經マシテ恰度是ハ同様ナル規定ヲ設ケテアリマスカラ、左様御承知ヲ願ヒマス

○花井卓藏君 今度即チ臺灣ニ在勤スル巡查看守退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律ナルモノハ、獨立シタル法律ニシテ、明治三十四年法律第三十八號ノ巡查看守退隱料及遺族扶助料法ノ改正デナイト云フコトヲ御認メニナリマスカ
○政府委員森田茂吉君 政府ノ見ル所デハ三十八號ガ臺灣ニ行ハレテ居リマシテ、其法律デハ臺灣巡查ノ在職年限十年ヲ經ナケレバ、退隱料ヲ與レナイト云フ規定ヲ七年ニスルト云フコトデアリマスカラ、是ハ法律ノ力ヲ以テセンケレバ出來ナイモノデアルト、政府ハ認メテ居リマス、即チ三十八號ノ内容ヲ改正スベキ案デアルカラ、唯命令デ極メル譯ニハ往カナイ、斯ウ云フ解釋デアリマス

○花井卓藏君 ツンナコトハ尋ネナイノデアアル、ツマリ本案ハ明治三十四年法律第三十八號ヲ改正シタル改正案ト看做シテ宜イカ、或ハ又本案ハ獨立シタル一ツノ法律ト見テ宜イカ、答ハ一言ニシテ足ルノデアアル、律令トカ命令トカ云フコトハ聽カヌデモ分リマス

○政府委員森田茂吉君 此法律ハ獨立シタル法律デアリマスカラ……

○花井卓藏君 ツレデ宜シイ、後トヲ言フカラ分ラヌ、問ハソレダケノコトデ……

○星松三郎君 今ノ御答デ略分リマシタガ、此三十八號ト云フモノハ單リ臺灣

ノミニ行ハルベキモノニアラズシテ、日本國ニ行ハルモノデアアル、ツコデ今回ノモノハ三十八號ノ改正案デアルカラ、或ハ單行法律デ出シタモノデアアルヤ否ヤト云フコトヲ御尋シタト云フコトノ趣意ニ私ハ聞取ッテ居ルガ、要スルニ今回ノモノハ改正ト云フ名ガナイ限りハ、矢張之ヲ單行法律トシテヤッテ往キタイ、斯ウ云フ御趣意デアルカ

○政府委員森田茂吉君 無論三十八號ノ改正案デアリマセヌ、法律ハ單行法律ト云ウテ出マスガ、其内容ハ三十八號ヲ變更スル、即チ十年ヲ七年ニスルトカ、恩給ニ當嵌メル病氣ヲ殖ストカスルノデ、内國ハ法律ヲ變更スル意味ヲ以テ居ル法律案ト見テ居リマス、ソレデスカラ命令デ出來ナイト云フ政府ノ考デアリマス

○星松三郎君 サウ致シマス内國ニ付イテハ取りモ直サズ、此三十八號ヲ改正スル的ノモノデアアル、サリナガラ表面ハ單行法律デアアル、即チ臺灣ノミニ行フタメノ單獨ノ單行法律ヲ出シタイト云フ趣意デアアル、斯ウ云フ譯ニナル

○政府委員森田茂吉君 臺灣ノミニ行フト云フコトニナリマスルト、少シ語弊ガアルト考ヘマス、ト云フモノハ此法律ガ出マスルト言フマデモナク帝國ノ法律ニナリマス、ソレデコッチノ巡查ガ臺灣ニ往ッテ勤ルニ時分ニハ、七年ニ縮マリマスカラ、コッチニ三年、向フニ三年往ケバソレ六年デナクシテ、三年ニ四年半デ七年半ニナル、斯ウ云フコトニナリマスカラ、事柄ハ臺灣ニ在勤スル巡查看守ニ對スル法律デアリマスガ、其關係ハ内地ノ巡查ガ臺灣ニ往クトキニハ、此恩典ニ浴スルコトニナリマス

○花井卓藏君 少シ理窟デスガ理窟ニ付イテ御尋シタイノデアアル、明治三十四年ノ法律第三十八號、即チ巡查看守退隱料及遺族扶助法ナル法律ハ、二十九年ノ法律六十三號五條ノ規定ニ基キテ勅令ヲ以テ臺灣ニ施行スベキ旨ヲ定メラレテアリマスガ、同條ノ結果トシテ法律三十八號ハ現ニ臺灣ニ行ハレテアルモノト見ルト云フコトハ政府委員ノ一番當初ノ説明ニ依ッテ分ッテ居ル、ソレカラ此度出ル本案ハ、三十八號ニ包含セラレザル別段ナル事柄ヲ規定シタル法律デアルト云フコトモ、條文ノ上ニ方テ自ラ明ラカデアアル、即チ内地ノ巡查看守ニ適用スベキ筋ノモノニアラズシテ、内地ニ於ケル法律三十八號ニ包含マレテ居ル巡查看守ニアラズシテ、内地ト同様ナル年限ニ於テ退隱料遺族扶助料ヲ課スルノ法律ニアラズシテ、即チ法律第三十八號ニ包含マレテ居ル所ノ年限ニ拘ハラズ別段ニ優待ヲ與フル法律ニシテ、全ク性質ガ異ナッテ作ラレタ所ガ、聊モ明治三十四年ノ法律第三十八號ト云フモノヲ變ズル、若バ改メルト云フ理ハアルマイ、此法律即チ臺灣ニ在勤スル巡查看守ニ退隱料遺族扶助料ニ關スル法律ガ施行セラレタ所デ、法律第三十八號ト云フモノハ矢張り獨立シテ活キテ居ルベキ筋ノモノト思フ、活キテ居ルカラシテ、今度出マス法律ハ、互ニ連接シテ居ル、果シテ左様ナ次第デアリマスレバ、正則ノ法律ト云フモノヲ變則ノ法律デ變ヘル事柄ガ出來ルトカ、出來ヌトカ、法律

ヲ命令ヲ以テ變ヘルコトガ出來ルトカ、出來ヌトカ云フヲ——ナスヲ要セズ、既ニ行ハレテ居ル、第三十八號ガ法律ノ第五條ニ基イテ、其結果トシテ臺灣ニ行ハレテ居ルモノデアル、此度ノ法律ハ六十三號ノ第一條ノ規定ニ基イテ、即チ委任セラレタル權限ニ基イテ命令トシテ發シ得ラルルノデアル、是ハ臺灣ノ管區域内ニ於テ法律同様に効力ヲ有スルモノデアル、此度出マス法律ト云フモノハ、委任セラレタル權限ニ基イテ命令トシテ臺灣總督府ガ發セラレテ既ニ行ハレテ居ル所ノ法律三十八號ハ六十三號ノ五條ノ規定ニ基イテ臺灣ニ施行セラレテ居ルノデアル、互ニ相俟ッテ退隱料及遺族扶助法ノ年限並ニ金額ヲ増スト云フ趣意ニナルト云フコトニナレバ、聊カモ命令ヲ以テ法律ヲ變ヘルトカ、或ハ又六十三號ニモ斯様ナ過大ナ權ハ含マレテナイト云フコトハ、議論スルコトハナイト思フ

○政府委員森田茂吉君 御議論ニ亘ル點ハ申上デマセヌガ、サウ云フコトニナレバ臺灣ニハ非常ニ都合ガ好イノデ、強テ斯ウ云フモノヲ出ス必要ハナイノデ、現ニ一昨日モ衆議院ヲ通過シタル鐵道用品資金特別會計法、是モ臺灣ノ鐵道ヲ特別ニ置クノデ、尙三十二年ニ於テ一般ノ文官ノ恩給法ハ内地ト同様ニ行ハレテ居リマスガ、其中デ内地ハ十五年ノ手數デアルガ、臺灣ハ十年デ宜イ尙風土病ノ關係モアルカラ是等ノ事項モ加ハルト云フコトハ、ドウシテモ律令デ出來ナイト云フコトデ、議會ノ協賛ヲ經テ出タ、斯ウ云フ次第デ是ガ律令デ勝手ニ出來ルト云フコトデアレバ宜ウゴザイマスガ、今日マデノ解釋ハ議會モ其考デ、今日マデ澤山ニ是等ノモノガ出テ居リマスカラ、斯ウ云フコトハ律令ヲ以テナシ得ナイト云フコト、テ今度出シタヤウナ次第デアリマス、議論ニ亘ル所ハ別段ニ申シマセヌカ、事實ガサウ云フコトニナッテ居リマス

○花井卓藏君 只今ノ御答ニハッテ見ルト凡ソ會計法ニ關係ヲ有スル性質ノモノニ對シテハ多クハ一般ノ立法方法ニ依ッテ出ル、即チ正則ノ立法方法ニ依ッテハ六十三條ノ一條ノ運用ヲセヌト云フ仕來リニナッテ居ル、斯ウ云フコトヲ申サレタコト、聞取ッテ宜ウゴザイマス

○政府委員森田茂吉君 サウデハナイデス、會計法ガ丁度内地モ臺灣モ同様ノ會計法ガ行ハレテ居リマス、ソレ故ニ一昨日衆議院ヲ通過シタル特別會計法ノ如キモ其會計法ノ規定ニ依リマシテ、變則ヲ以テ設ケルノデアリマスカラ、ソレデソレハ律令ノ力デ縱シンバ臺灣ノ鐵道ニ關シタコトニ過ギヌデスケレドモ、律令デ出來ヌト云フノデ、議會ノ協賛ヲ經テ現ニ通過シタヤウナ次第ニナッテ居リマスカラ、是ハツマリ法律論ノ上カラノ見解ガ違フノデアリマスカラ、或ハ私ハ此處デ議論スルノ必要ハナイカト思ヒマスガ、事實ハ官吏ノ恩給モ殊更ニ議會ノ協議ヲ經テ、臺灣文官ノ特別恩給法ト云フモノヲ出サヌデモ宜イト云フノ譯デアリマスガ、出シテ議定ヲ待ツト云フノハ、丁度今度出シタト同シ理由ヲ以テ出シテ居リマスカラ、左様御承知ヲ願ヒタイ

○花井卓藏君 憲法ノ規程ニ依ッテ見ルト、裁判所ノ構成權限ト云フモノ、並ニ裁判官ノ任命權職ト云フモノハ、法律ニ據ルニアラザレバ制定スルコトガ

出來ヌト云フ規程ガアルノデアル、而シテ是等ノモノハ矢張法律六十三號ニ於ケル第一條ノ規程ノ結果トシテ、即チ法律ノ効力ヲ有スル命令ヲ以テ制定セラレテアルノデアル、即チ法律ノ六十三號ノカト云フモノハ、憲法ガ法律ニ據ルニアラザレバ作ルコトヲ得ヌト定メラレタル、裁判所ノ設置並ニ其判官ノ任命權職サヘモ差支ナイ、第一條ノ權限ニ依ッテ爲シ得ベキガ如キ狀態ニナッテ居ルヤウニ心得テ居ルデゴザイマス、即チ或場合ニ於テハ、六十三號ハ憲法ノ條規サヘモ喰ッテ往ケル、憲法ノ條規ニデモ反シテ往ケルガ如ク、裁判關係ニ於テハ見ラル、ニモ拘ラズ、獨リ會計法ニ關スルコトカ、會計法ニ響ヲ有スルトカ云フモノニ對シテハ、今日マデノ仕來リト云フモノガ、六十三號ノ運用ニ據ラズ、正則立法ニ據ッテ居ルト云フコトヲ言ハル、ノハ、命令ヲ以テ法律ヲ破ルコトハ出來ヌト云フ議論ヲ根據トシテ居ルコト、ハ思ヒマスガ、裁判關係ノ方カラ考ヘテ見タナラバ、現ニ此委任命令ト云フモノハ、憲法ノ條規マデ、食ッテ居ルガ如キ大權力ヲ持ッテ居ルデアリマセヌカ、又會計法トカ豫算トカ云フ事柄ハ、凡ソ如何ナル法律ニモ伴隨セヌモノハ無イ、會計法ニ響ヲ有スルガ故ニ、若ハ豫算ニ關係ヲ有スルガ故ニト云フナラバ、我邦ニ於テ制定セラレタル法律ハ、幾千萬幾千萬ノ多キニ達シテモ、何レモ豫算ト會計法ニ響ヲ持タヌ法律ト云フモノハアリハセヌ、之ヲ別段ニセラル、ト云フ事柄ハ、今日マデノ仕來リデアルト云フ若シソレガ仕來リデアアルナラバ、惡ルキ仕來リデアアル議會ガ通過セシメテ居タナラバ、惡ルキ議決デアアル、臺灣ノ統治ノ上ニ於テ總テノ法令ハ内地ト同様ニ出來ヌト宣言シテ居ルニモ拘ハラズ、此ノ如ク或者ハ内地同様ニ、或者ハ内地不同様ニ、或者ハ一般ノ憲法ノ規定ニ基イテ、帝國議會ノ協賛ヲ得ル、或者ハ六十三號ノ力ニ依ッテ隨意ニ立法スルト云フガ如ク、凡ソ立法ニ關スル法律心ト云フモノハ、減茶減茶ニナッテ居ル、臺灣總督府ト云フモノハ、大ナル權限ヲ有シナガラ、使フモノト使ハナイモノガアル、或ハ使ハレルモノト使ハレナイモノガアルト云フガ如クニナリマシテハ、如何ニモ臺灣ニ於ケル法律制度ノ立テ方ノ方法ト云フモノハ、亂暴極マルト私ハ言ハナケレバナラヌ、少ナクトモ錯雜極マルト云ハナケレバナラヌノデアアル、若モ斯様ナ政府ノ其力モ臺灣ニテハ一條ノ働キトシテハ出來ナイト云フガ如キ事柄ニ御覽ニナラハ、寧ろ六十三號ト云フモノハ運命ノ益々其果敢ナキヲ見ナケレバナラヌ結果ニナリハセヌカト云フコトヲ私ハ憂ヘルノデアアル、此通り——本案ノ通りニ總テシタイト云フノハ、本員等ノ希望スル所デアルケレドモ、又希望セザルヲ得ヌ所ノモフデアルケレドモ、實際六十三號ニ於テ授ケラレタル權限ヲ巧ニ運用シテ往カヌト云フ事柄ヲ是等ノ法律、森田君ガ今迄引用シタ法律ノ上ニ於テ、證明スレバ益々六十三號ハ匪徒刑罰令、新聞紙條例、保安條例ト云フ惡事ヲ爲ス折ノミホカ使ッテ居ナイ、帝國議會ニ於テハ連モ通過ガムヅカシイト云フ分ニ向ッテノミ運用シ、通過ノ出來サウナモノニ向ッテハ一般ノ法律ニ依ル、斯ウ云フ風ニ見ルヨリ外ナイト思フノデアアルガ、其邊ノ御考ヲ承リ

タイ是ハ理窟デモ何デモナイ事實トシテ承リタイ

○政府委員森田茂吉君 今ノニ御答ヘ申シマス、議論ニ涉ルヤウデスカ
ラ、御答申シマセヌガ、詰リ六十三號ノ運用如何ト云フコトニ就テハ、私ハ
別段此處デ何等申上ゲルコトハ致シマセヌガ、花井君ノ御議論ハ六十三號ニ
大變關係セラルルヤウニ御議論ナサレマシタガ、其點ニ付イテハ別ニ私ハ辯
明致シマセヌガ、初メ申上ゲマシタ通り内地ノ法律ヲ臺灣ニ施イテ居ル場
合ニ於テ、其法律ノ内容ヲ變ヘ、條件ヲ變ヘル場合ハ、律令ノ力デ往カヌト
云フ政府ノ解釋デ、今日マデ執リ、又今日モ尙其考デ居リマスノデ、此法律
案ヲ出シマシタノデゴザイマスカラ、ツレヨリ外ニモウ申上ゲル事實ハゴザ
イマセヌ

○花井卓藏君 是同ジ法律關係ニ就イテ一ツ御尋ヲ致シタイ、我邦ノ刑法
即チ此正則ノ手段ニ依ッテ公布セラレテ居ル所ノ日本ノ刑法、刑法ト云フモノ
ハ矢張法律六十三號ノ第五條ノ規程ニ基イテ勅令ヲ以テ臺灣ニ行フベキ旨ノ
定メラレ居ルト云フコトハ、御認メニナルデセウ

○政府委員森田茂吉君 サウデアリマセヌ、刑法ハ律令デ行ハレテ居リマス
○花井卓藏君 律令デ行ハレテ居ルト云フモノハ、ドウ云フ譯デ……

○政府委員森田茂吉君 詰リ臺灣ニ於テノ刑法ハ此五條デ行ハレズシテ、律
令デモッテ臺灣ニ刑法ヲ施イテアル

○花井卓藏君 法律六十三號ノ第五條ニハ現行法律——刑法ハ現行法律デア
ル、其現行法律ヲ臺灣ニ施行スルコトヲ要スベキ場合ニ於テハ、勅令ヲ以テ是
ヲ規程セヨト云フ事柄ノ法文ガアルノデアリマスガ、刑法ニ向ッテハ六十三號
如何ニ拘ハラズ、隨意ニ律令デ行ハレテ居ルトカ、或ハ其他ノ命令デ行ハレ
テ居ルトカ云フノハ、如何ナル譯デス

○政府委員森田茂吉君 是ハ御答申スト長クナリマスガ、別ニ關係ハナイヤ
ウデスガ、ドウデセウカ

○花井卓藏君 關係ハ大ニアル
○政府委員森田茂吉君 ツレデハ是ヲ御覽ヲ願ヒマセウ

(此時森田政府委員臺灣總督府法規提要ヲ示ス)

○花井卓藏君 是ガ惡イデヤナイカ民事ニ關スル法律、商事ニ關スル法律、
刑事ニ關スル法律、總テ正則的ノ立法デ作ラレテ居ル内地ノ是等ノ法律ト云
フモノハ——法律六十三號ノ第五條ニ所謂現行法律ト云フモノ、除外例ト云
フ解釋ヲ政府ハ執ッテ居ルノデスカ、サウ云フコトヲ執ッテ居レバ、大變ナ話
デアル

○政府委員森田茂吉君 是ハ別ナ問題ニナリマスカラ、私ハ此處デ御答セズ
ニ置キマスガ、單ニ第五條ハ法律ノ一部又ハ全部ヲ臺灣ニ行フ場合所デ、其
法律ノ適用ヲ受ケル人種ニ限ルト云フ場合ハ、勅令デアル譯ニモ往キマセヌ、
即チ清國人ニナルノニハ刑事ハヤラヌノデ、唯彼處ニ在留スル内地人若ハ、外
人ニナルト云フヤウナ事ヲ勅令デモッテ區分ヲシテアル譯ニ往キマセヌ、ソ

レハ六十三號ニナイ、ツレデ律令デ以テ出テ居ル、斯ウ云フ工合ニ出テ居ル、
豈ニ管ニツレバカリデハゴザイマセヌ、マダ外ニ澤山アリマス、別ニ此方ノ
議論ニナリマススト大變ニ現ニ……

(此間速記ヲ中止ス)

○花井卓藏君 此問題ハ頗ル大切ナル問題デアリマス、是ヲ大ニシテハ立法
權ニ響キヲ持ッ所ノ重大ナル問題デアル、又之ヲ小ニシテハ六十三號ノ運用
ト云フモノガ如何ニ上手ニ亦如何ニ下手ニ、行ハレテ居ルヤ否ヤト云フ事柄
ヲ見ルニ就イテ、甚ダ大切ナルコトデアラウト思フ、六十三號ト云フ法案ニ
關係ヲ有セザルニアラズ、大ニ關係ヲ有シテ居ルノデアル、私共ノ議論ノ趣
意カラスレバ、六十三號ハ固ヨリ是ハ否認スル、併ナガラ既ニ六十三號ナル
モノガ出テ居リ、其運用宜シキヲ得レバ、勿論斯ノ如キ臺灣ノミニ而モ巡查看
守扶助料供給料ナドニ關シテハ、此授ケラレタル……或幾多ノ例ヲ舉ゲラレ
タ、例ノ前々カラアルヤハ、今研究ハ出來ナイ、併ナガラ總テ立法ノ場合ニ於
テハ、法律ノ沿革歴史ト云フコトヲ詳ニ是ヲ攻究スル必要ガアル、又憲法上委
任命令ト云フ事柄ヲ認メラレタニシテモ、其命令ノ範圍ト云フモノハ、無限ノ
間ニ不限ノ間ニ自然ニ制限ヲ受ケテ居ルノデアル、其制限ヲ受ケテ居ル點ヨ
リ考ヘテ、或ハ内地ニ於テ正則ノ立法手段ヲ取ルベク、或ハ臺灣ニ於テ變則ノ
立法手段ヲ取ルベク、認メラレテ居ルモノカ否ヤト云フコトハ宜シク研究ヲ
スベキ問題デアラウト思フ、故ニ政府委員ニ篤ト御聞取リヲ願ヒタイ、即チ法
律六十三號ノ第一條ニ依リテ發セラレタル律令凡ソ幾種アル、而シテ其律令
ト云フモノハ盡ク明治二十九年三月三十一日發布セラレタルモノヲ一々本員
ハ點檢ヲ致サナケレバナラヌノデアル、ツレカラ第二ニ於テハ第三條ノ手續
ニ依リテ、即チ臨時緊急ニ要スベキ場合ニ於テ總督ガ第二條第一項ノ手續ヲ
經ズシテ、直チニ第一條ノ命令ヲ發シタル數、竝ニ命令其者ノ種類、ツレカ
ラ第五條ニ基テ凡ソ現行ノ法律ニシテ臺灣ニ行ハルベキ性質ヲ有スルモノト
シテ、同條ノ規定ニ基イテ勅令ヲ以テ臺灣ニ施行スベク定メラレタル法律命
令幾種アリヤ、其數、及其種ノ法律、以上三種、以上ノ三ツノ點ニ於テ精細
ナル統計ヲ示サレ、又法律事體ヲ委ク示サレ、サウシテ先例ガドウ云フモノデ
アルカラ見ナケレバナカナカ此法案ヲ質問スルコトガ出來ヌデアラウト思
フ、私ハツレハ調査致サレルコトヲ政府委員ニ注文シタシデアル、所ガ政府
委員ハツレヲ示サレヌノデアル、私ハ是等ノ物ガ具備スルニアラサレバ、本
案ノ質問ハ出來ヌモノデアルト思フ、政府ガ此法案ヲ決定セララルナラバ、是
ダケノ物ヲ一ツ備ヘテ廻附セラレント望ミマス、然ル上ニ質問ヲナシ審
議ヲ進メルコトニ致シタイト思フ、是ハ大ニ研究ヲ要スルコトデアラウト思
フ

○政府委員森田茂吉君 ツマリ臺灣總督府法規提要ヨリ名前ト數ガアリマセ
ヌノデアリマス、甚ダ残念デアリマスガ、是ヲ一ツ御覽ヲ願ヒタイト思ヒマ
ス、此中ニ皆表ガ……

○星松三郎君 今ノ花井君ノ御論ハ尤モナ譯デ、私モ欲シイノデアリマスガ、成丈進ムダケ進メテ置キタイ、茲ニ臺灣ニ在勤スル官吏恩給及遺族扶助料ト云ウノデ同種類ノモノガ三十二年三月三十一日法律第七十五號出テ居ル、同シヤウナ事柄デアアルノデアアルガ、一ツ御尋ネシタイノ内地デ在勤シタ所ノ巡查ガ、臺灣ニ往ッテ、ツマリ年限ガ相當シタルトキノ場合ト、ソレカラ臺灣ニ在勤シタ巡查ガ日本ニ來テ年限ヲ有ツ場合ト同様ナ効力ヲ有スルカ否ヤ、日本ニ在勤ヲシテ一箇年ノ者ガ參ッテ二箇年以上在勤ヲシタ、ソレカラ臺灣ニ一年以上居ッテ者ガ、コチラニ來テ二年ノ繼續ヲシタト云フ場合ガ、現時在勤シテ居ル者デ往クノデアアルカ、臺灣カラ内地ニ來テ者ハ此法令ノ上デハ、即チ三十八號ニ依ラザルベカラズト云フ風ニ見ルカドウデス

○政府委員森田茂吉君 臺灣ニ在勤スル巡查看守ノ在職年數ハ、内地ノ方ヘ轉勤シタ場合ニハ、矢張此三十八號ト云フモノガ臺灣ニ行ハレテ居リマス故ニ、此條項ニ依テ適用スルノデアリマスカラ、臺灣モ内地モ年數ハ共通シテ居リマス

○星松三郎君 内地カラ臺灣ニ往ッテ、臺灣ニ在勤シタ者ハ其通りデアルト思ハレマスガ、内地デ在勤シテ一年トカ二年トカ云フヤツハ、加算サレルト云フ譯ニナリマス

○政府委員森田茂吉君 其時分ニハ二年シカナイノデ、内地デ二年勤メテツレカラ臺灣ニ行ッテ五年勤メルト、二年ト五年ト加ヘルカラ、七年ニナル譯デスガ、ソレデ臺灣カラ來テモコチカラ往キマシテモ、共通シテ居ルカラ、同一ノ法律デナケレバナリマセヌ、ソコデ此同一ノ法律デ三十八號ヲ出シテ、臺灣ダケノ年數ニ充タサウト云フ規定デアリマス

○星松三郎君 サウスルト臺灣ニ二年在勤シタ者ハ、内地ニ歸ッタ場合ニハ三年ト云フコトニ積算ヲサレルト云フコトニナルト、内地ノ者ハ二年デアアルガ、臺灣ノ者ガ六年デアレバ、ソレニ加算ヲスレバ九年トナルト、即チ九年ト二年ト合セレバ十一年ニナルト云フ……

○政府委員森田茂吉君 其規定ハ三十八號ノ中ニアリマス、ドウシテモ是ヲ臺灣ニ往ッテアルノデ、臺灣ノ巡查ト内地ノ巡查ト共通ニ出來ルコトガ——此前ニモ協贊ヲ經テ出タ所ノ内地ノ教員ガ臺灣ノ教員トナルニハ、ソレ等ノ關係モ矢張同様ニ往キタイト云フコトニシテ、サウシテ此身分上ニ關シタモノハ、確實ニシタイト云フ希望ノデアリマスケレドモ、臺灣ノ事情ノタメニ恩典ヲ加ヘナケレバナラヌモノハ、特ニ規定ヲシテ遣ラウト云フ次第デゴザイマス

○市岡政香君 段々花井君ノ質問ニ對シテ分ッタ所モゴザイマスシ、分ラナイ所モ出來タヤウデゴザイマス、所ガ花井君ノ御議論デ見マスルト、六十三號ニ非常ニ關係ヲ持ッテ居ルノハ無論デアリマスガ、全部賛成スル譯デハアリマセヌガ、兎モ角モ六十三號ト云フモノガ、今ヤ本議ニ上リ掛ケテ居ルノデアリマスカラ、其運用如何ニ依ッテ此會ヲ開クト云フコトガ宜カラウト思

ヒマス、議決シヤウトシマイト、其上マデハ此會ヲ閉ヂタ方ガ宜カラウト思ヒマス、其間ニ花井君ノ御注文ニ政府ガ應ジテ、總テノ書類ヲ具備シテ出ルカ出ナイカ、ソレハ御都合次第デアリマスガ、本會ハ兎モ角モ六十三號ノ否認サレルカ可決サレルカシテ、其後ニ再ビ開カレントヲ望ミマス

○花井卓藏君 チョット市岡君ノ御説モアリマスガ、無論六十三號ニ關係ヲ有スルト云フコトハ、勿論デアリマスケレドモ、若モ此政府ニシテ研究ニ必要ナル材料ヲ供セラレテ、其材料ニ依ッテ研究シタル極デスナ、六十三號ト離レテ見ルベキモノデアルト云フ論ヲ發見スルカモ知レマセヌ、若モサウ云フコトガアツタナラバ、引續イテ會議ヲ開クト云フ事柄モ誠ニ便法デアラウト思ヒマス兎ニ角幾多ノ例ヲ引カレタノデアアルガ、其例ト云フモノハ政府ガ示サレテ居ナイノデアアルカラ、吾々ノ研究ノ上ニハ甚ダ困ルカラ、ソレダケハ具ヘテ貰ハナケレバナリマセヌ、豫算案ナクシテ豫算ヲ議スルコトハ出來ヌト同ジク、法案ニ附隨シテ必要ナル材料ナクシテ審議スルコトハ出來ヌマセヌ、其要求モ容レラレズ、市岡君ノ要求ヲ容レヌト云フ政府ノ考デアラナラバ、議事ノ進行ヲ圖ルタメニ唯今即時ニ否決シタイト思ヒマス

○政府委員森田茂吉君 ソレデハ花井君ニ此提要ヲ差上ゲテ置キマセウ、各員ニ配付スルト云フコトハ部數ガ揃ヒマセヌ、此提要ハ一部シカアリマセヌ、電報デ言ッテ遣ッテアリマスケレドモ、未ダ届キマセヌカラ、是ヲ一部ダケ差上ゲテ置キマス

(此間速記ヲ中止ス)

○花井卓藏君 ソンナモンヂヤ内容ハ分ラナイ

○星松三郎君 チョット御尋シマスガ、臺灣ニ在勤スル巡查看守退隱料及遺族扶助料ト云フモノハ、先刻申上ゲマシタ通り明治三十三年三月三十日ニ出來テ居ルノデアリマスガ、ソレガ三箇年以上在職シタル者ニハ、官吏恩給法並ニ官吏遺族扶助料ノ在官年數計算ニ於テ其在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス、此年限ノ上デハ一箇年ノ相違ガアルガ、コチラハ二箇年デアッテ、文官ニ對シテハ三箇年デアアルガ、此年限ニ差等ノアルノハ、ドウ云フ譯デスガ

○政府委員森田茂吉君 是ハ其文字ノ方ハ十五年ガ丁度恩給法ノ年限デス、巡查ノ方ハ三十八條ニ依リマシテ、十箇年ニナッテ居リマス、ソレデソレ等ノ割合カラ文官ハ三年在勤シテ居ッテ、而シテ後此恩典ニ浴スル巡查ノ方ハ二箇年位デ宜カラウト云フノデ、恩給ノ日子ガ十箇年ニナッテ居リマスカラ、其比較カラ差等ヲ立テタノデアリマス

○星松三郎君 是ヲ出ス時ニ氣附カナイデヤッタノデアリマスガ、文官ノ方ニバカリ法律案ヲ提出シテ、此巡查看守ニ對スルモノハ、其當時政府ガ氣附カヌデ出サヌノデアアッタノデアリマスガ、ドウデアリマス

○政府委員森田茂吉君 巡查看守ノ待遇法ハ、昨年協贊ヲ經テ始終内務省デ此法案ヲ調査シテ居ッテ三十二年ニモ出シタノデアリマスケレドモ、問ニ合ヒマセヌデ、決議モ何モ見ズニ濟ンダノデアリマス、所デ昨年議會ノ協贊ヲ經

テ出マシタカラ、直グツレヲ臺灣ニ適用スルト云フコトニナッタノデアリマス
○花井卓藏君 兎ニ角ニ速記録ニ、臺灣ニ關スル法律ト題セラレテアル表、勅
令ヲ以テ臺灣ニ法律ヲ施行シタルモノト題シタル表、律令ト題シタル表、明治
二十九年法律第六十三號發布後ノ法律律令件數調ト題スル表、法律第六十三
號、明治二十九年三月三十一日發布、法律第三十八號、明治三十四年七月二十
五日發布、ソレト明治三十四年七月二十五日勅令第五百五十號、以上ノ全文ハ速
記録ニ其儘掲ゲテ置イテ、他ノ議員諸君ノ參照ニ供セラル、コトヲ要求シテ
置キマス

○星松三郎君 唯今花井君及市岡君カラ御質議ガゴザイマシタカラ、其事柄
ニ付イテハ全然御同意申シマスルガ、兎ニ角ニ是ハ六十三號ト關聯シテ居ル
ヤウナモノデ、其單行法律トシテ出スト云フナラバ、單行法律トシテ出スダ
ケノ矢張考ヘヲ以テ六十三號ヲ相待タズシテヤルト云フ方ガ適當ノ方ダラウ
ト思フ、サウ致セバドウシタラ宜イカト云フト、錯綜シタ問題デアッテ、即チ
事實ヲ確カメタ上デナケレバ、之ヲ決議スルコトガ出來ヌト云フ、今日ノ場
合ニナッテ居レバ、此材料ガ揃フト同時ニ、今日即時ト申ス譯ニ參リマス
イガ、明日ナリ、明後日ナリ、材料ノ纏リ次第、更ニ決定スルコトニ致シタ
イ、サウ致シマセヌト、兎角此案其モノ、性質ニ向フテモ議論ハ多岐ニ互ル
ヤウニナルダラウト思フ、可否ハ其當時ニ讓ルト致シ、參考ヲ政府ノ方カラ提
出サレデ……

○委員長石谷董九郎君 ソレデハ花井君ノ御論ト御同様デアリマスナ
○花井卓藏君 サウデス

○政府委員森田茂吉君 サウシマス、アリマスダケハ一時御間ニ合セルコ
トニシマシテ、其他ノモノハ蒞蒞版デドウデゴザイマセウ、現ニ使ッテ居リ
マスモノヲ揃ヒマス、二三部アリマススケレドモ、ソレデ御宥恕下サル譯ニ
參リマスマイカ

○花井卓藏君 兎ニ角質問ノ出來ルヤウニ、審議ノ出來ルヤウニ、臺灣ニ行
ハレテ居ル法律ト臺灣ニ行ハレテ居ル、律令若ハ勅令ニ依ッテ定メラレテア
ル性質ノモノ、此凡ソ立法ヲ爲スノデアルカラ、是ニ關スル立法上ノ歴史ト
シテ必要ナル材料ヲ供給シテ貰フニ於テハ、何デモ構ハヌ御寫シニナラウ
ト、蒞蒞版デアラウト何デモ構ハヌ

○星松三郎君 此浩澣ニ互ッタヤウナ考ヘヲ政府ガ有ツト、調ベルニモ困ルダ
ラウト思フガ、要スルニ先刻花井君カラ申シタル所ノモノハ、ツマリ云フ所ガ法
律トシタ出シタモノハ何々デアアルカト云フコトノモノト、ソレカラ此六十三
號ノ効力ニ依ッテ發シタル律令ト云フモノハ、ドウドウデアアルカト云フコトデ
アルガ、即チ此本ヲ見レバ律令モ分ルガ、要スルニ適用ダケヲ、例ヘバ此處
ニ臺灣ニ在勤スル官吏恩給法ト云フヤウナモノ、法律デ以テ、定メタ件數種
類ト云フヤウナモノヲ列舉シテ出シタナラバ、是レデ明カニ分ルダラウト思
フ、ソコデツマリ之ヲ拜見シタラ分ルダラウ題目ニ過ギナイ話デアリマス

カラ、ソレカラ凡ソ政府ガ答辯ノ出來ルダケノ設備ヲシテ質問ガ終レバ、即
時ニ決スルコトガ出來ルノデアリマス、用意ハ十分シテ貰ヒタイ
○政府委員森田茂吉君 承知シマシタ、ソレデ花井君ニチヨット伺ッテ置キマ
スガ、皆ヤラズニ其方ニ關スルモノヲ三ツ四ツヂヤイケマセヌカ
○花井卓藏君 ソレデハイカヌ
○政府委員森田茂吉君 是ヲ一ツ差上ゲテ置キマセウ、サウシテ外ノモノ
ハ……

○委員長石谷董九郎君 ソレデハ今日ハ是デ……
午後三時二分散會

(參照)

法律第六十三號 明治二十九年三月三十一日

第一條 臺灣總督ハ其ノ管轄區域内ニ法律ノ效力ヲ有スル命令ヲ發スルコ
トヲ得

第二條 前條ノ命令ハ臺灣總督府評議會ノ議決ヲ取り拓殖務大臣ヲ經テ勅
裁ヲ請フヘシ

臺灣總督府評議會ノ組織ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テ臺灣總督ハ前條第一項ノ手續ヲ經ス
シテ直ニ第一條ノ命令ヲ發スルコトヲ得

第四條 前條ニ依リ發シタル命令ハ發布後直ニ勅裁ヲ請ヒ且之ヲ臺灣總督
府評議會ニ報告スヘシ

勅裁ヲ得サルトキハ總督ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公
布スヘシ

第五條 現行ノ法律又ハ將來發布スル法律ニシテ其全部又ハ一部ヲ臺灣ニ
施行スルヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 此ノ法律ハ明治三十五年三月三十一日マテ其ノ效力ヲ有ス
法律第三十八號 明治三十四年七月二十五日

巡查看守退隱料及遺族扶助料法

第一條 巡查又ハ看守勤續十年以上ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ退隱
料ヲ給ス

一 年齡五十歳ヲ超ヘ退職シタルトキ

二 傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタルトキ

三 廢官廢廳ニ依リ退職シタルトキ

四 身體若ハ精神ノ衰弱又ハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタルトキ

前項ノ退隱料年額ハ退職當時ニ於ケル月俸三箇月分トシ勤續十年以上三
十年ニ至ル迄一年ヲ加フル毎ニ退職當時ノ月俸額十分ノ一ヲ増加ス

第二條 巡查又ハ看守勤續一年以上十年未滿ニシテ第一條第一項各號ノ一
ニ當ルトキハ一時金ヲ給ス但シ退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者ハ此ノ

限ニ在ラス

一時金ハ退職當時ニ於ケル月俸額ノ三分ノ二ニ勤續年數ヲ乘シタル額トス

第三條 退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者再ヒ前職ニ就キ勤續一年以上ニシテ第一條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤續三十年ニ至ル迄後ノ勤續一年ヲ加フル毎ニ後ノ退職當時ニ於ケル月俸額十分ノ一ヲ退隱料年額ニ増加ス

一時金ヲ受ケタル者又ハ受クヘキ者再ヒ前職ニ就キ第一條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ前後通算シテ勤續十年以上ニ至ル者ニハ第一條ニ依リ退隱料ヲ給シ十年未滿ノ者ニハ第二條ニ依リ後ノ勤續年數ニ對スル一時金ヲ給ス

第四條 巡查又ハ看守職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準スヘキ者ト爲リ其ノ職ニ堪ヘス退職シタルトキハ退隱料ヲ給ス

前項ノ退隱料年額ハ退職當時ノ月俸三箇月分乃至六箇月分トス

第一條及第三條ニ依リ退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者本條第一項ニ當ルトキハ其ノ退隱料年額ニ退職當時ノ月俸四箇月以內ヲ増加ス

前二項ニ依リ退隱料年額及增加金額ハ傷痍疾病ノ輕重ニ依リ之ヲ定ム

第五條 前條ノ規定ハ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後一年以內ニ其ノ傷痍疾病ニ基因シ前條第一項ニ當ルニ至リタル者ニ之ヲ準用ス

第六條 巡查又ハ看守交互ニ轉職シ又ハ他ノ官職ニ轉シタルトキハ事務ノ都合ニ依リ退職ヲ命セラレタル者ト看做ス

第七條 巡查又ハ看守左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ遺族ニ扶助料ヲ給ス

一 職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ在職中死亡シタルトキ

二 勤續十年以上ニシテ在職中死亡シタルトキ

三 退隱料ヲ受ケ又ハ受クヘキシテ死亡シタルトキ

扶助料年額ハ前項第一號ノ場合ニ在リテハ第四條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ二トシ第二號ノ場合ニ在リテハ第一條又ハ第三條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ一トシ第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ退隱料年額ノ三分ノ一トス但シ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後一年以內ニ其ノ傷痍疾病ニ起因シテ死亡シタルトキハ第四條第五條ニ依リ査定シタル金額ノ三分ノ二トス

第八條 扶助料ハ寡婦ニ給ス寡婦死亡シ又ハ扶助料ヲ受クヘカラサルトキハ子ニ給ス

數子間ニ在リテハ法定家督相續ノ順位ニ依リ最先者ニ給ス最先者死亡シ若ハ扶助料ヲ受クヘカラサルトキハ順次次位者ニ轉給ス

民法第九百六十九條ニ依リ家督相續人タルコトヲ得サル者及推定家督相

續人ニシテ廢除セラレタル者ニハ扶助料ヲ給セス但シ疾病其ノ他身體又ハ精神ノ狀況ニ依リ家政ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲廢除セラレタル者ハ此ノ限ニ在ラス

養子ハ家督相續人ニ非サレハ扶助料ヲ給セス

第九條 扶助料ヲ受クヘキ寡婦及子ナキトキハ扶助料ハ直系尊屬ニ給ス前項ノ場合ニ在リテハ先ツ父ニ給シ父死亡シ又ハ扶助料ヲ受クヘカラサルトキハ母ニ給ス母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ順次此ノ例ニ依ル

第十條 扶助料ヲ受クル者ナクシテ死亡シタル者ノ家ニ在ル兄弟姊妹二十歲未滿又ハ篤疾若ハ癡疾ニシテ自活スルコト能ハサルトキハ扶助料ニ相當スル金額ノ三箇年分以內ヲ一時限リ給スルコトアルヘシ

第十一條 退隱料ヲ受ケタル者又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ之ヲ給セス

一 國籍ヲ喪失シタルトキ

二 重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 在職中ノ犯罪ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第十二條 遺族ニシテ左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ扶助料ヲ給セス

一 前條第一號又ハ第二號ニ當ルトキ

二 寡婦婚姻シタルトキ

三 子年齡二十歲ニ滿チタルトキ

四 尊屬ノ女婚姻シタルトキ

第十三條 子二十歲ニ滿ルモ篤疾又ハ癡病ニシテ自活スルコト能ハス他ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ事由ノ存續スル間扶助料ノ三分ノ一ヲ給スルコトアルヘシ

第十四條 退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者左ノ各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ間退隱料ヲ支給ヲ停止ス

一 公權ヲ停止セラレタルトキ

二 六箇月以上行方不明ナルトキ

退隱料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者再ヒ判任官待遇以上ノ官職ニ就キタル場合ニ於テハ其ノ俸給月額ニ退隱料月割額ヲ合シ退職當時ニ於ケル俸給月額ニ超過スルトキハ其ノ超過額ニ對スル退隱料ノ支給ヲ停止ス

第十五條 扶助料ヲ受クル者又ハ受クヘキ者前條第一項各號ノ一ニ當ルトキハ其ノ間扶助料ノ支給ヲ停止シ第八條第九條ノ順位ニ依リ之ヲ次位者ニ轉給ス

第十六條 退隱料及扶助料ノ年額並一時金ノ圓位未滿ハ圓位ニ滿タシム

第十七條 巡查又ハ看守ノ勤續年數ハ就職ノ月ヨリ起算シ退職ノ月ヲ以テ終ル但シ十二箇月未滿ノ端數ハ之ヲ算入セス

休職及教習中ノ月數ハ勤續年數ニ算入セス

第十八條 巡查又ハ看守其ノ職務ヲ以テ從軍シタルトキハ軍人恩給法ノ算則ニ照ラシテ從軍年ヲ加算ス

第十九條 本法ニ於テ寡婦ノ子、尊屬ト稱スルハ巡查又ハ看守タリシ者死亡ノ當時ヨリ引續キ其ノ家ニ在ル者ヲ謂フ但シ父死亡後出生シタル嫡出ノ子ハ死亡當時其ノ家ニ在ル者ト看做ス

第二十條 退隱料及扶助料ノ支給、停止及廢止ハ其ノ事由ノ生シタル翌月ヨリ之ヲ行フ

第五條ニ依ル退隱料ノ支給ハ事由認定ノ翌月ヨリ始マリ前條但書ニ依ル扶助料ノ支給ハ出生ノ翌月ヨリ始マル

第二十一條 退隱料、一時金及扶助料ハ之ヲ受クヘキ事由ノ生シタル日ヨリ三年以内ニ請求スルニ非サレハ之ヲ給セス

第二十二條 退隱料ハ民事訴訟法第五百七十條及第六百十八條ノ規定ニ關シテハ恩給ト看做ス

第二十三條 本法ニ依ル給與金ノ支給ニ關スル事項ヲ裁定スヘキ行政官廳ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 本法ニ依ル給與金ハ巡查又ハ看守最後ノ退職又ハ死亡當時ニ於テ俸給ヲ受ケタル經濟ノ負擔トス

第二十五條 本法ニ依ル給與金ノ一部又ハ全部ヲ拒否セラレタル者其ノ拒否ヲ不當ナリトスルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得違法ニシテ權利ヲ傷害セラレタルトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條 本法ハ陸軍監獄看守、海軍監獄看守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛及其ノ遺族ニ之ヲ適用ス

附則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 明治十五年太政官達第四十一號巡查、看守、給助例ハ巡查、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛及其ノ遺族ニ之ヲ適用セス但シ巡查看守給助例ニ依リ現ニ給助ヲ受クル者又ハ既ニ受クヘキ事由ノ生シタル者又ハ其ノ事由ニ起因シテ一年以内ニ重病ニ趨キ又ハ死亡シタル者ニ對シテハ其ノ第一條乃至第七條ヲ適用スルノ外本法第三條、第十一條、第十二條、第十四條、第十五條、第二十條第一項、第二十一條、第二十三條及第二十五條ヲ準用ス

明治十五年太政官達第六十六號ハ巡查、看守ニ明治三十三年法律第三十號ハ巡查、看守、陸軍監獄看守、海軍監獄看守、海軍警査、貴族院守衛、衆議院守衛及其ノ遺族ニ之ヲ適用セス

勅令第五百五十號 明治三十四年七月二十五日
巡查看守退隱料及遺族扶助料法ハ第二十五條ヲ除キ明治三十四年八月一日ヨリ臺灣ニ之ヲ施行ス

第五類第二十二號 臺灣ニ在勤スル巡查看守退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案委員會會議錄

二十九年法律第六十三號發布後ノ法律律令件數調

年 度	法 律		法 律 令		合 計	改 廢
	法 律	律 令	法 律	律 令		
自二十九年四月至三十二年三月	八	一九	二七	四二	三	四五
自三十二年四月至三十四年三月	四	二五	二九	三七	一一	四八
合 計	一二	四四	五六	七九	一四	九三

備考 律令中法律ノ大部分ヲ適用シタルモノハ律令ヲ以テ法律ヲ適用シタルモノトシ其小部分ヲ適用シタルモノハ單ニ律令トス

律令

二十九年

臺灣總督府法院條例

臺灣總督府臨時法院條例

臺灣總督府非常通信規則

臺灣ニ於ケル犯罪ヲ刑法ニ依リ所斷スルノ件

臺灣地租規則

臺灣鑛業規則

拘留科料ノ刑ニ該ルヘキ犯罪即決例

臺灣傳染病豫防規則

製茶稅則

外國人ニ關スル訴訟ノ裁判管轄

外國貿易ノ爲開港ニ出入スル支那形船ニ關スル件

特別輸出港ニ關スル件

臺灣阿片令

臺灣官有森林原野及產物特別處分令ニ依リ賣渡シタル土地ノ地租ニ關スル件

契稅規則

銃砲取締規則

火藥取締規則

鐵道用地地租免除規則

臺灣鐵道會社鐵道布設用材料輸入稅免除規則

樟腦油稅則

五月一號	七月十一號	七月二十一號	八月十四號	八月十六號	九月七號	十月一號	十月十五號	十月二十四號	十一月八號	十一月十八號	十二月十八號
一月十七號	二月二十一號	三月十三號	三月十六號	四月二十七號	五月二號	六月二號	七月二號	八月二號	九月二號	十月二號	十一月二號
一月二十九號	二月二十九號	三月二十九號	四月二十九號	五月二十九號	六月二十九號	七月二十九號	八月二十九號	九月二十九號	十月二十九號	十一月二十九號	十二月二十九號

三十一年

明治二十九年日令第十一號糖業稅則中改正ノ件	三月二十六日
刑事ニ關スル判決ノ正本謄本又ハ抄本ヲ求ムルトキノ手數料ノ件	三月二十九日
明治三十年律令第四號契稅規則中改正ノ件	四月十四日
臺灣船籍規則 支那形船舶取締規則廢止	五月二十一日
臺灣租稅滯納處分規則	六月二日
民事訴訟用印紙規則	六月十六日
臺灣總督府法院執達規則	六月二十六日
民事商事及刑事ニ關スル律令 臺灣ニ於ケル犯罪所斷ノ件廢止	七月十六日
民事商事及刑事ニ關スル律令施行規則	八月十六日
民事訴訟費用規則	九月九日
刑事訴訟費用規則	十月九日
明治三十一年七月十六日前ニ發起ノ認可ヲ得タル私設鐵道會社ニ關スル件	十月十六日
臺灣地籍規則	十一月二日
臺灣土地調查規則	十一月十七日
高等土地調查委員會規則	十二月四日
臺灣總督府法院條例	十二月九日
臺灣地方稅規則	十二月十九日
臺灣總督府法院判官懲戒令	十二月二十九日
臺灣ニ於テ一圓銀貨幣無制限通用ニ關スル件	一月七
臺灣阿片令中改正ノ件	一月十七
保甲條例	一月三十一
臺灣鑛業規則中改正ノ件	二月十一
臺灣總督府臨時法院條例中改正ノ件	二月二十五
匪徒刑罰令	三月十一
重罪輕罪控訴豫納金規則	三月二十五
保稅倉庫ニ關スル律令	三月三十

三十二年

民事上ノ訴ニ關スル件	一月十五日
臺灣地方救濟金ニ關スル件	一月二十
臺灣監獄則	二月一
臺灣獸疫豫防規則	三月二十六
明治三十二年法律第一號(民事上ノ訴ニシテ二十八年五月八日以前ニ於テ訴權ヲ發生シタルモノハ地方法院ニ於テ之ヲ受理セサル件)第二項中改正ノ件	四月
臺灣下水規則	五月三十一
臺灣食鹽專賣規則	六月十九
刑事訴訟法民事訴訟法及其附屬法律適用ノ件	七月二十六
臺灣島人及清國人ノ犯罪ニ付テハ檢察官ニ於テ豫審ヲ求メ又ハ直ニ訴ヲ起スヲ得ル件	八月二十八
臺灣汽船檢查規則	九月
臺灣供託規則	十月七
臺灣不動產登記規則	十月十七
外國人ノ署名捺印及無資力證明ニ關スル件	十一月三
臺灣鹽田規則	十一月四
臺灣樟腦樟腦油專賣規則	十二月十二
臺灣樟腦樟腦油製造規則	十二月二十五
臺灣食鹽專賣規則中改正	一月六
明治二十九年律令第十號(外國人ニ關スル)廢止	一月九
臺灣輸出稅及出港稅規則	一月十四
臺灣關稅規則	一月十五
律令ヲ以テ臺灣ニ適用シタル法律ノ改正アリタルトキノ効力ニ關スル件	二月十一
臺灣噸稅規則	二月二十二
臺灣海港檢疫規則	三月十三
民法第二百四十條第二百四十一條ヲ臺灣島人及清國人ノ間ニ適用ノ件	三月十四
海面ノ埋立及海埔浮洲ノ埋立開墾ニ關スル件	三月十九
刑事事件ノ再審及非常上告ニ付テハ覆審法院ヲ以テ上告裁判所トナスノ件	三月三十

電信電話ノ犯罪ニ關スル罰則

包郵便法

二十九 年四月八

一 稅關法	法第二十	勅第二十九年八月十九日
一 會計法	法第二十四	勅第二十九年五月四日
一 陸軍刑法及海軍刑法	勅第三十年四月十日	勅第三十年四月十日
一 明治十五年太政官第六十七號布告(弔祭扶助療治料支給ノ件)	勅第三十年八月十六日	勅第三十年八月十六日
一 戒嚴令	勅第三十年四月十六日	勅第三十年四月十六日
一 海底電信線、保護萬國聯合條約罰則	勅第三十年八月十九日	勅第三十年八月十九日
一 郵便聯合國郵便切手類保護法	勅第三十年八月二十七日	勅第三十年八月二十七日
一 小包郵便ヲ以テ外國へ輸出スル物品總テ關稅ヲ免除スルノ件	勅第三十一年五月十一日	勅第三十一年五月十一日
一 法例	勅第三十一年七月十五日	勅第三十一年七月十五日
一 銀行條例(第二十三號)貯蓄銀行條例(第三十號)及銀行合併法(第二十九號)	勅第三十一年九月一日	勅第三十一年九月一日
一 關稅定率法	勅第三十一年九月十五日	勅第三十一年九月十五日
一 失火ノ責任ニ關スル件	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル件	勅第三十二年八月九日	勅第三十二年八月九日
一 國籍法	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法(第十一條除ク)	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 國籍喪失者ノ權利ニ關スル件	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 特許法	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 意匠法	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 商標法	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 著作權法	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 遺失物法	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 登錄稅法(土地ノ登記ニ關スルモノ及第四條第五條第八條第九條第十四條ヲ除ク)	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 行旅病人及行旅死亡人取扱法	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 海上衝突豫防法	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日
一 官設鐵道、郵便、電信、郵便爲替及郵便貯金ニ關スル現金出納ニ關スル件	勅第三十二年九月六日	勅第三十二年九月六日

一 傳染病豫防救治ニ從事スル者ノ手當金ニ關スル件	法第三〇	勅第二十九年七月二號
一 郵便法	法第五四	勅第三十三年八月九號
一 爲替法	法第五五	勅第三十三年八月九號
一 鐵道船舶郵便法	法第五六	勅第三十三年八月九號
一 電信法	法第五七	勅第三十三年八月九號
一 軍機保護法	法第三一〇	勅第三十四年三月二號
一 巡查看守退隱料及遺族扶助料法	法第三一八	勅第三十四年三月二號
一 砂糖消費稅法	法第三一九	勅第三十四年三月二號
一 軍港要港ニ關スル件	法第三二〇	勅第三十四年三月二號
一 軍港要港規則違犯者處分方	法第三二一	勅第三十四年三月二號
一 公立學校職員退隱料等ニ關スル件	法第三二二	勅第三十四年三月二號